

〔研究論文〕

中学校音楽科における鑑賞授業の実際
—音楽の言語化と他者との共有に着目して—

Demonstration of Junior High School Music Appreciation Class
-Focus on Verbalization of Music and Sharing with Others-

平松 舞
Mai HIRAMATSU

山中 和佳子
Wakako YAMANAKA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻
教育実践力開発コース

福岡教育大学教育学部
音楽教育講座

(2019年1月31日受理)

本研究は、中学校音楽科の鑑賞領域の学習において、音楽のおもしろさを自ら発見し他者と共有できる学習者の育成のために、〔共通事項〕を軸に、音楽のイメージを言葉で表現する語彙を伸ばすための聴き方指導を提案することを目的とする。〔共通事項〕軸にした学習プリントを使用し、聴き取るポイントを細かく分けて鑑賞をさせることにより学習者の音楽の言葉の充実がみられた。また、学習者自身が音楽を分析的に聴くプロセスを自覚し始めたことが挙げられる。そして、本研究を行うことで指導者自身も、学習者独自の聴き方やイメージの分析考察を行うことができた。しかし、分析的な音楽の聴き方が強すぎると感じ取る感受の意識が損なわれる。そのため、感受したことを分析する鑑賞の活動の在り方を今後追究する。

キーワード：〔共通事項〕、音楽的語彙、中学校音楽科、鑑賞、知覚、感受

1 はじめに

次期学習指導要領改訂の方向性には、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であることが示されている(中教審2016)。

これまでの中学校音楽科の鑑賞領域の学習は、教師主導型の授業が多く、受動的な行為と捉えられがちであった。これらの課題を解決するためには、「どのように学ぶか」ということに関して、鑑賞をする際、学習者が教師の解説を聞き、聴くポイントを示され鑑賞するのではなく、学習者自身が音楽を分析的に聴く力を身に付け、鑑賞をすることが重要である。

また、中学校音楽科の指導内容の改善において、〔共通事項〕が、「見方・考え方」との関連を

考慮して位置づけられている。中学校音楽科の〔共通事項〕とは、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること、音楽に関する用語や記号などについて音楽活動を通して理解することである。

中学校音楽科における「見方・考え方」とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」である。

また、学習指導要領解説音楽編(文部科学省2017)では、中学校2学年及び3学年の鑑賞活動で身に付けさせる指導内容として「曲や演奏に対する評価とその根拠」という文章が新しく明記された。

上記のことから、音楽を聴いて感じ取ったことや考えたことについて、音楽の構造や要素などを

根拠として、言葉を用いて表す主体的な鑑賞学習を進めることが重要である。そうすることで、初めてその音楽の価値を学習者自身が自覚し明らかにできるようになるのではないか。

2 研究の目的と方法

本研究では、音楽のおもしろさを自ら発見し他者と共有できる学習者の育成のために、音楽科の〔共通事項〕を軸に、音楽を分析的に聴き、その音楽的特徴と楽曲固有の良さとの関連をとらえ、言葉で表現することができる力を育成する鑑賞指導を提案することを目的とする。

そのために、〔共通事項〕を軸にした学習プリントを作成し、音楽の聴き方のプロセスを習得させる。また、個人の聴き方を協働学習に広げられるような方途をみいだす。

3 先行研究

(1) 言語としての音楽

岡田(2009)は、音楽とはただの心地よいサウンドではなく、一つの言語であって、文法と語彙をしないと理解出来ない部分があると述べている。また、岡田(2009)は音楽を語る言葉として4つに分類している。1つ目は「もっと大きく」「ここからクレッシェンドして」といった直接的指示、2つ目は「ワイン・グラスで乾杯する様子を思い描いて」といった詩的絵画的な比喻。3つ目は、音楽の内部関連ならびに外部関連について。4つ目は身体感覚に関わる比喻であるとある。そして、「聴くこと」と「語り合うこと」とが一体になってこそ音楽の喜びは生まれるのだと述べている。

このことから、音楽を語る語彙は多様にあり、音楽を聴くとは音楽の語り方を知ることでもあると分かる。さらに、聴き取ったことや感じたことを他者と音楽を語り合うことでさらに音楽を聴く楽しさを学習者が見いだせる。

(2) 「音楽」と「ことば」について

山中(2014)は、音楽学習の質的内容を高める音楽的な言葉として、以下の5つを挙げている。①一般社会や学校教育において、一定の共通理解がなされている音楽事象を表す言葉＝〔共通事項〕②文化的・時代背景、諸民族の音楽の特徴を表すような言葉③「やさしい」「ゆったりした」などの性格や状況を表す言葉④身体感覚や身体操作など具体的な動作を表す言葉⑤一見音楽とはか

け離れた経験や感情、自然環境を表す言葉＝比喩的表現、メタファー「スキップしたくなるような楽しい感じ」とか「目の前に大きな青い空がぱあっと広がる感じ」など。

音楽科における言語活動では、これらの5種類の言葉を単体で用いるのではなく、総合的に関連づけながら用いていく必要があると述べている。

(3) 〔共通事項〕について

寺田(2011)は、「〔共通事項〕は、音や音楽を介して思考・判断し、表現する力を育てるための基盤となる内容であり、(中略)〔共通事項〕の学習が音楽科授業のあらゆる場面で展開されることで、単に音楽活動をする授業から、『音楽的思考を伴って活動する』『活動して音楽を思考する』授業へと転換させることができる」と述べている。また、「自分が感じた音楽的イメージ」が音楽の諸要素のどこと関連しているのか、どの要素からイメージが生起しているのかを吟味することで子どもは音楽の不思議さ、面白さを発見していく」と述べている。つまり、音楽的思考をもち主体的に鑑賞するためには、〔共通事項〕の中でも特に、音楽を形づくっている要素を手がかりに、「イメージしたことや感じたことが楽曲のどこからなのか」や「なぜそのように感じたか」を客観的に考える必要があると言える。

これらの先行研究の音楽を言葉で表現する視点によって、〔共通事項〕を軸に自らのイメージや音楽的特徴を言葉で表すことに着目した授業実践の分析と考察を行う。

4 授業実践Ⅰ

(1) 授業の概要

授業の概要は以下の通りである。

実施日	平成30年5月30日～6月11日
場所	福岡県内公立中学校
対象	第2学年 3学級 合計100名
教材名	組曲「展覧会の絵」から 全3時間
主眼	絵画と音楽を〔共通事項〕に着目させながら関連させ、音楽の要素を捉えること。

(2) 本授業の学習者の実態

授業実践を行う前に実態把握をするために音楽の学習についてのアンケートを実施した。

「音楽の授業で好きな分野を教えてください」という問いに対して、鑑賞40%歌唱25%器楽31%創作4%という結果であった。ここから鑑賞の授業に対して興味関心が高いことが読み取れる。ま

た、「あなたは音楽の授業で音楽を聴いて感想を書く時や友達と話す時困ることはありますか」という問いに対して、ある・時々あるが 67%であった。また、ある・時々あると答えた学習者に対しての「どんなことで困りますか」という問いに対して、「よい言葉が出てこない」「自分の考えたことを言葉にできない」「何を書けばいいかわからない」「決められた量が書けない」といったことが挙げられた。このような回答から、学習者が音楽を聴きイメージしたことをどう言葉で表したらよいのかという戸惑いがみられた。また、「よい言葉」や「決められた量」といったような答えや規則を気にしている様子が見えた。

そして、「あなたは音楽の授業で音楽を聴くとき、どんなところに注意して聴きますか。選択しなさい。(音色・リズム・旋律・ハーモニー・速度)」という問いに対して強弱・旋律・速度という回答が多く、音色・リズムに関しては回答が少なかった。このような回答から音色・リズムに関しての手立てが必要であると感じられた。

(3) 授業展開

〔共通事項〕を軸におき、音楽の特徴を音楽の要素と結び付けて聴き取らせ文章で表現させる授業実践を行った。3時間の授業の本研究に関わる学習者の活動と主な教師の手立て、学習者の反応は以下の通りである。

①1 時間目の授業展開

1 時間目の授業展開を以下の(表 1)に示す。

(表 1) 1 時間目の活動の流れ

	活動
導入	○「故郷」というイメージを〔共通事項〕の言葉を組み込ませながら文章で表現する。
展開	○組曲「展覧会の絵」の作曲の経緯、背景を知る。 ○オーケストラの編成と主な楽器を知る。
終末	○組曲「展覧会の絵」の中から3曲を鑑賞する。

学習者の〔共通事項〕に対する知識と音楽を言葉で表す能力の実態把握を行うため、イメージしたことを〔共通事項〕の文言を使用しながら文章で表現するという活動を設定した。この活動では、既存の音楽を言葉で表すという鑑賞活動の一般的な流れではなく、「自分の想像したことを音楽で表すならばどうするか」というように創作活動の根本にある「イメージを音楽へ」という思考の流れを取り入れた課題を提示するといった特徴

をもたせた。具体的には、生徒の馴染みのある景色や食べ物、日本の風景をスライドで見せ、「故郷」と題した曲を自分で作るとしたらどのような曲にするかという問いを設け、「故郷」というイメージを〔共通事項〕(速度・リズム・強弱・音色・旋律)の言葉を組み込ませながら、自由に表現させた。しかし、言葉で表現することに困難を感じている生徒の実態があったため、手立て①「色」でイメージ→手立て②言葉で表現→手立て③イメージの想起を援助するための音楽聴取、という学習展開を図った。この活動での教師の手立てと学習者の様子は以下の通りである。

【手立て①】全員が取り組みやすいように、「故郷」を色でイメージさせる。

【学習者の様子】色でイメージさせることで全員が取り組んでいた。また、自然と周りに「何色にした」「なんでその色と思うの」と言ったような会話が聞こえた。

【手だて②】聴き取ったことをより具体的に表現するために、〔共通事項〕をくみこんだ文章を、教師が例文を提示する。

【学習者の様子】以下は手立て②の後に学習者が記述した一例である。

○A 児 イメージした色【はだ色】

ゆっくりしていて、川が流れるように歌う。アルトリコーダで演奏する。低くゆったりと演奏する。

○B 児 イメージした色【緑】

リズムカルなかんじで楽しく歌う感じ。トランペットと小太鼓で演奏する。葉っぱが風でゆらされる感じ。

○C 児 イメージした色【黄緑】

リズムと音色はともにゆっくりしていて、豊かで自然が多い「故郷」をあらわしている。透き通るようなおだやかな声で歌う。

○D 児 イメージした色【緑】

音色がゆっくりしていて、ギターとかでも弾いて歌えるような、優しい曲。

○E 児 イメージした色【茜色】

旋律はなめらかに滑るように上下する。強弱は少し弱く、速度はゆっくりゆっくりする。ピアノ・トライアングルで少し眠くなるような優しく自分を包むように。

学習者の記述の分析を、先行研究(2)山中の5つの分類を参考に行うと、大きく2つのパターンが読み取れた。まず1つ目は、A児B児のように③④⑤の表現が多いことである。具体的に「ゆっくりしていて」といった性格や状況を表す言葉や

「リズムカルなかんじ」といった身体感覚や動作を表す言葉、「葉っぱが風でゆらされる」といったような自然環境を表す言葉のことである。2つ目は、C児D児E児のように①と③⑤を関連づけている文章である。①に分類される〔共通事項〕については、速度を記述している割合が高かった一方で、速度とリズムに関して区別できていない学習者が多数いることまた、音色と旋律の記述が少ないことが読み取れた。さらに、D児の「音色がゆったりして」といった〔共通事項〕を使おうと意識しているが、その意味を理解できていない記述も見受けられた。

【手立て③】イメージが膨らまない学習者への例示として、教師が岡野貞一作曲文部省唱歌「故郷」を歌唱する。

【学習者の様子】教師の「故郷」の歌唱を聴いた後に旋律・速度に気づいた様子がみられた。

1時間目全体を通しての考察として、まず音楽のイメージを言葉で表現する語彙の多様性が読み取れた。一方で、〔共通事項〕の正確な意味を再確認する必要があることが分かった。このことを踏まえ、2時間目の活動では〔共通事項〕に示された言葉の意味を理解しながら、5種類の音楽的な言葉を適宜関連づけながら知覚感受したことを言葉で表現する手立てを試みる。

②2時間目の授業展開

2時間目の授業展開を以下の(表2)に示す。

(表2) 2時間目の活動の流れ

	活動
導入	○前時の振り返りを行う。 (組曲「展覧会の絵」からの背景、オーケストラについて) ○〔共通事項〕の言葉の意味を確認する。
展開	○組曲「展覧会の絵」からの鑑賞をする。 ○「報告書」と題した学習プリントを使用し、段階をおって鑑賞を進める。
終末	○本時の振り返りを行う。

導入では前時の振り返りを行った後に、〔共通事項〕の(速度・音色・強弱・旋律・リズム)言葉の意味をもう一度確認した。

展開では、意欲を持たせるため学習者を「MUNAKATA 音楽探偵団」と名づけ、「報告書」と題した学習プリントを使用し、《展覧会の絵》から3曲を抜粋し鑑賞させた。

(図1)は、筆者が学習者に段階をおって鑑賞できる手立てとして作成した学習プリントである。また、前述した山中の5つの分類の言葉を用いや

すくするために、音楽を分析的に聴くうえでのポイントとして、印象やイメージといった抽象的な言葉での表現を求める項目とともに、速度・音色・強弱・旋律・リズムの5つを具体的に提示し、それを「音楽の証拠」と名づけそれぞれの特徴を聴き取らせるようにした。

1曲目の鑑賞の手順として、①曲を聴かせる前に、教材で使用されたガルトマンが描いた絵画を見て自由に印象を書かせた。その後数人でその印象イメージを伝え合った。次に②曲を聴いて音楽のイメージを文章で表現させ、感じたことや想像したことを伝え合わせた。その後、③イメージの根拠として、「音楽の証拠」を見つける活動を行った。このとき〔共通事項〕に対する知識差があったため、全員が答えられるように選択肢を設け聴かせた。最後に①～③を基に絵画のイメージと音楽の証拠を関連づけて曲の特徴を記述させた。

「キエフの大門」	
① 絵画を見てのイメージ	③ 音楽の証拠を見つけよう 事実として聴こえたことにチェックを。 ・速度 (変化がある・一定・その他) ・音色 (明るい・暗い・怖い・楽しい・その他) ・強弱 (強い・弱い・だんだん小さく・だんだん大きく) ・旋律 (高い・低い・高低差がある・なめらか・激しい) ・リズム (弾むような・堂々とした・その他)
② 曲を聴いてのイメージ	
♪①～③を基にこの曲の特徴を書いてみよう ・絵画のイメージと音楽の証拠を関連づけて書いてみよう。	

(図1) 2時間目で使用した学習プリント(抜粋)

学習者の全体の様子としては、活動を区切りながら行ったため飽きることなく学習プリントの①、②、③ともに意欲的な様子であった。

①・②の活動では、積極的に自由な言葉で絵画の印象や音楽のイメージを表現し、友達に伝えようとする生徒の姿が見られた。学習者が感受をする際、自由な言葉で表現できると見とれた。

③の活動では、「先生、旋律ってどこ聴けばいいの」「これってトランペットの音ですか」「速度は一定ですよ」などといった回答を求めるような質問を多く受けた。分析の各ポイントを注視しながら聴いている姿が見られた一方で、選択肢を小さくくり提示したため、細かい楽曲の特徴を聴き取っていた生徒にとまどいを生む結果となってしまった。

また、曲の特徴を書く活動の際、①②③をまとめる作業に個人差が見られた。具体的に音楽のイメージや絵画の印象と音楽の証拠をどう関連づけ

ればよいのか悩んでいる学習者の様子も見受けられた。学習プリント一例としてD児・E児を以下に挙げる。

「卵の殻をつけたひなどりの踊り」	
① 絵画を見ての印象	② 音楽の証拠を見つけよう
・印象にのこる(インパクト) ・題名からは想像のつかない絵	事実として聴こえたことにチェックを。 ★速度 (速い) ・音色 聴こえた楽器名(フルート) (明るい、楽しい) ・強弱 (だんたん大きく、だんたん小さく) ★旋律 (高い) ★リズム (弾むような感じ)
③ 曲を聴いてのイメージ	
・小さい動物がぼうけんをしているような感じで、場面がたくさん変わっている ・追いかけているような感じが速い ・テンポが速い	
④⑤を基にこの曲の特徴を書いてみよう 曲のテンポが速く弾むように流れているのが楽しく明るい感じ	

(図2) D児の学習プリント

「卵の殻をつけたひなどりの踊り」 他者のトロンボーンなどで設定感などもある	
① 絵画を見ての印象	② 音楽の証拠を見つけよう
意外性があり、とても面白い 明に楽しんでいる感じがする。つやがたりを人間でたとえている?	事実として聴こえたことにチェックを。 ★速度 (一定で速い) ・音色 聴こえた楽器名(フルート、ランバル、ヴァイオリン、ピッコロ) (明るく、可愛いらしい) ・強弱 (強い) ★旋律 (高く、激しい) ★リズム (弾むような、おどろおどろしい)
③ 曲を聴いてのイメージ	
小さくてポテポテしている なんだが可愛いらしい。 親鳥を追い回しているように わいわい。ひなどりの可愛らしい感じがする。	
④⑤を基にこの曲の特徴を書いてみよう ひなどりの可愛いらしいをフルートやピッコロで表している。また、強く、わいわい、ポテポテした弾むような、自由さがある。	

(図3) E児の学習プリント

D児は、「卵の殻をつけたひなどりの踊り」の②の「場面がたくさん変わっている」「追いかけてっこをしているようだ」といった表現から速度・リズムに注目して聴いているのが読み取れる。

E児は、「卵の殻をつけたひなどりの踊り」の曲の特徴において「ひなどりのかわいらしさ」という性格や状況を表す言葉と「フルートやピッコロで表している」という音色を関連づけて記述している。この学習プリントを使用することで、学習者自身が音楽の何を聴いているのか自覚できること。また、指導者も学習者のプリントを見返した時、学習者の音楽を言葉であらわす言語化の能力や、個々人の聴き方の特性を把握できるのではないだろうか。

2時間目の授業の最後に書かせた学習者の感想の記述に「いつもと違う音楽の聴き方だった。こういう聴き方もいいなと思った。」「音楽は速度や強弱などでイメージが変わることがわかった。」

「絵によって全然音色が違った。自分は楽器が聴

けないのかも。」「イメージや印象を音楽の証拠とつなげるのは初めてでおもしろかったです。強弱と速度は聴き取りやすかった他の曲でもしてみたい」とあった。

これらのことから、学習者が「共通事項」を軸にした主体的な音楽の聴き方を習得し始めていることが学習プリントや記述や感想から読み取れた。また、学習者が自身の聴き方を客観的に捉えようとしている様子も読み取れた。

③3時間目の授業展開

3時間目の授業展開を以下の(表3)に示す。

(表3) 3時間目の活動の流れ

	活動
導入	○前時の振り返りを行う。 (組曲「展覧会の絵」からの背景、オーケストラについて) ○キャプションボードの作成方法の説明を聞く。
展開	○組曲「展覧会の絵」のキャプションボードを班ごとに作成する。
終末	○組曲「展覧会の絵」から1曲選びムソルグスキーになりきって曲の特徴を文章で表現する。 ○本時の振り返りを行う。

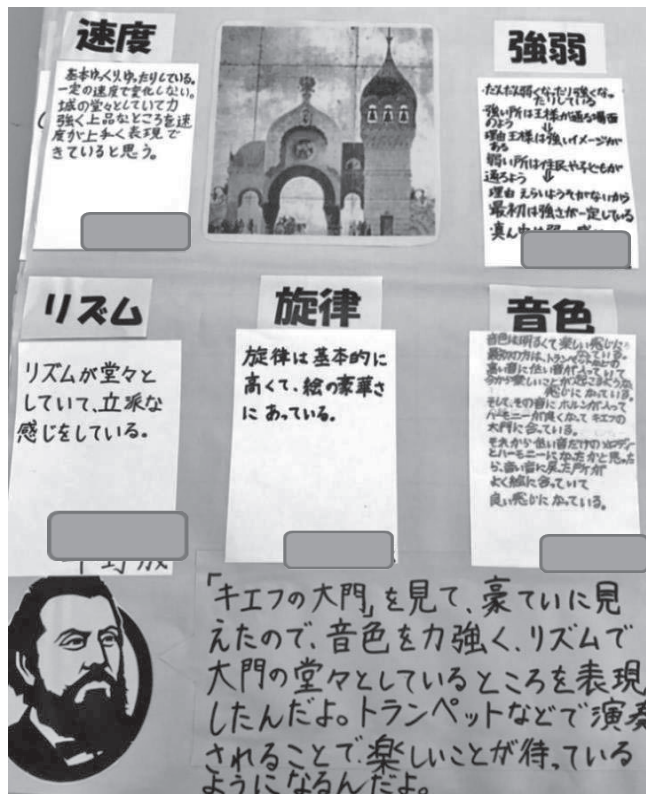
前時は「共通事項」の言葉の把握のために、5つの「速度・強弱・リズム・旋律・音色」を意識させながら、組曲「展覧会の絵」を聴かせた。そのため沢山の要素を聴き取ることができたが、聴き取りの深まりは比較的浅かった。また、個人で聴くことを重視したため、他者がどういったことを聴き、どういった言葉で表現しているのか交流を行えていなかった。このことから、3時間目は音楽のイメージを言葉で表現する語彙を班で共有し新たな聴き方・感じ方に出会うために、組曲「展覧会の絵」のキャプションボード(図4)を作成する活動を行った。

活動の内容は、5人班で前時に聴いた3曲の中から1曲を選択させた。その後、音楽の証拠(速度・音色・強弱・旋律・リズム)の中から担当の要素を決めさせた。このことにより、1時間目より詳細に音楽の要素を聴きとることができると同時に、班で鑑賞を進めることで他者を参考に音楽のイメージを言葉で表現する語彙を増やすことができるのではないかと考えた。

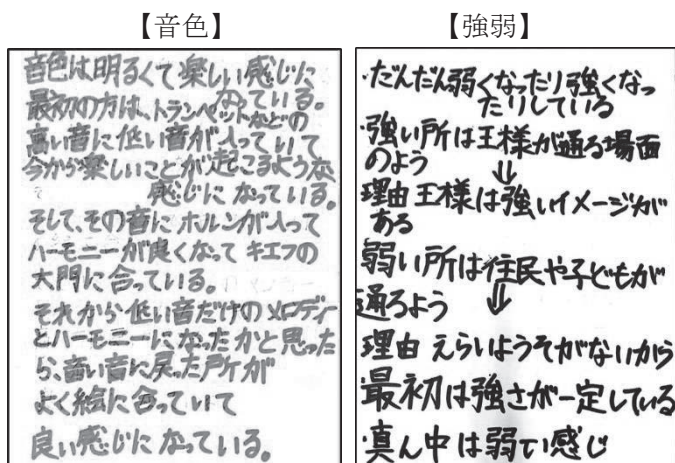
キャプションボードを作成する際の手立ては、まず、班ごとに選択した楽曲のイメージや絵画の印象を交流させた。班での交流を行うことで「そのイメージは音楽のどの部分から感じたの?」

「卵の様子を表している楽器が気になるよね。そこに注目して聴いてみようか」「パーバヤーガの

音楽が全員怖い印象を受けたことから、その理由を各自探っていこう」など音楽の聴く視点を統一させることや、班オリジナルのストーリーを考えている様子であった。また、交流をすることによりイメージと音楽の要素を結びつけようとする様子もみえた。



(図4) 班で作成したキャプションボード



(図5) 個人の記述例

(図5)の個人の記述をしてみる。右の【強弱】を担当した学習者は、自分の思考を整理しながら順序立てて記述している。〔共通事項〕(＝音楽事象)を表す言葉と音楽のストーリーや状況をイメージした言葉が整理されて記述されている。

左の【音色】を担当した学習者は、音楽の性格を表す言葉と〔共通事項〕(具体的な楽器名)を関連づけて記述されている。このように、〔共通事項〕を軸に聴かせることにより、音楽を語る語彙が豊かになっていると読み取れた。

キャプションボードを作成した後、学習者の音楽の言葉の変化を見取るために、一曲選択させ〔共通事項〕を軸に文章で表現させた。その際、2つのポイントを学習者に提示した。そのポイントは①ガルトマンの絵を見て、ムソルグスキーが感じ取ったことを書くこと。②感じ取ったことを音楽でどのように表現しているか、音色や強弱などの音楽の証拠を使って説明することである。以下は1時間目に取り上げたA～E児の記述である。

○A児 選んだ曲【キエフの大門】

何かを守ろうとしていることを絵画から感じ取った。祝いごとのように聞こえたのは、音色が明るくて強弱がだんだん大きくなっていて、堂々としたようなリズムで音楽がつくられていたから。シンバルの音が盛大に盛り上げていた。

○B児 選んだ曲【バーバヤーガの小屋】

僕は、ムソルグスキーさんは、バーバヤーガを見た時にとても速い速度で迫ってきていると感じたのではないかと音楽の速い速度から想像した。僕がこの音楽を好きな理由は、旋律の低い音や楽器の音色が暗いのが絵に合っていると思ったからです。

○C児 選んだ曲【キエフの大門】

ムソルグスキーはキエフの大門が王族などが住んでいそうな上品な絵に見えたんだと思いました。それをリズムで大門の堂々としているところを表現していると思いました。他にも明るい音色で上品なところを表現しているとも思いました。

○D児 選んだ曲【キエフの大門】

キエフの大門の絵はものすごい豪邸に見えたので、音色を力強くリズムを堂々としてバスドラムなどで演奏することで、絵の中の城がとても立派に表現される。

○E児 選んだ曲【バーバ・ヤーガ】

最初に聞いたときに、暗くて怖い感じがした。それは、強弱が激しくシンバルなどの大きな音の楽器で驚かすような感じだから。また、速度はとても速く追いかけるような恐怖を出している。これらは絵の恐ろしさを表していると思う。

A～E児の記述を分析すると、2点の成果があった。1つ目は、〔共通事項〕を軸として、楽器や強弱、速度などの変化による音楽的な効果に着目

することができていること、2つ目はそれらを自分なりのイメージと結び付けて、より詳細に言語化することができていることである。

(4) 成果と課題

授業実践Ⅰを通して、成果として2点挙げる。1点目は、学習者の〔共通事項〕に示された音楽事象の文言の理解が深まったことである。根拠として、2時間目の学習プリントの〔共通事項〕の言葉の選択の記述が全員書けていたことが挙げられる。2点目は、3時間目の活動を通して、学習者の音楽のイメージを言葉で表現する語彙がより詳細になったことである。

以上のことから、〔共通事項〕を軸に段階をおって鑑賞させたところ、学習者が自身の音楽の聴き方を自覚し始めたこと、また音楽のイメージを言葉で表現する語彙が豊かになったことを、学習者の文章から見取ることができた。

課題として、〔共通事項〕(「音楽の証拠」)のより分析的な聴き方の必要性が挙げられる。なぜならば、「実際に自分の聴こえた楽器が使用されているのか気になってきた」や「ほんとにクレシェンドついているかな、最後のデクレシェンドも気になる」「楽器が実際演奏しているのを映像で見てみたい」「速度が速くなっているように感じたところは本当に速くなっているのか」といった学習者のつぶやきが聞かれたからである。

上記の学習者の発言から、この授業を受け学習者は、聴いた音楽の特徴が実際楽譜等で事実として表現されているのかということに関心が向いていると推測される。このことから、より分析的な鑑賞する手立てを提案すると同時に、学習者の音楽のイメージを言葉で表現する語彙がどのように変容するのか、授業実践Ⅱで試みる。

5 授業実践Ⅱ

(1) 授業の概要

授業実践Ⅰの結果と考察を受けて、授業実践Ⅱを行った。授業の概要は以下の通りである。

実施日	平成30年10月5日～10月19日
場所	福岡県内公立中学校
対象	第3学年 2学級 合計75名
教材名	ブルタバ(モルダウ) (連作交響詩「我が祖国」から) 全3時間
主眼	「ブルタバ」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、作曲者の思いを音楽の言葉で表現すること。

(2) 本授業の事前準備

本授業に入るまでに、楽器の音色に注目させる手立てとして4回「楽器クイズ」という活動を行った。そのため、オーケストラの主な楽器の音色について理解をしている学習者が多いのが実態である。

(3) 授業展開

授業実践Ⅰを受け、今回の実践で新しく取り入れたことは、〔共通事項〕をより分析的に捉えるための手立てについてである。また、その手だてにより学習者の音楽のイメージを言葉で表現する語彙の変容を見取る。

①1時間目の授業展開

「ブルタバ」の楽曲や作曲の経緯、作曲者について理解させた後、オーケストラの構成・楽器について復習をおこなった。その後、一度通して楽曲を鑑賞させた。

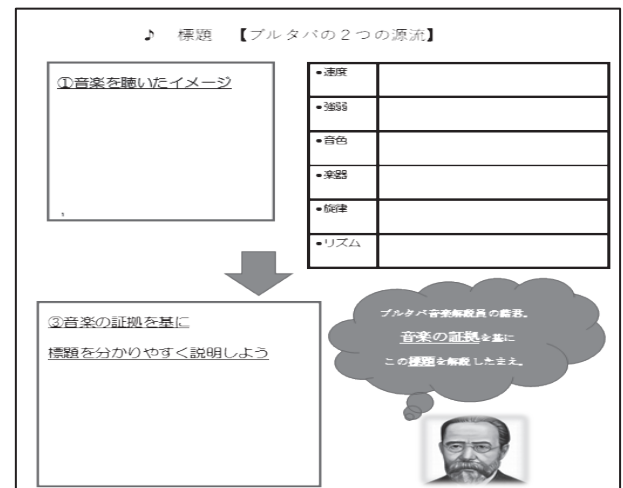
②2時間目の授業展開

2時間目の授業展開を以下の(表4)に示す。

(表4) 2時間目の活動の流れ

	活動
導入	○オーケストラの楽器クイズを行う。 ○ブルタバの作曲の背景を復習する。
展開	○「ブルタバ解説シート」と題した学習プリントを使用し、段階をおって鑑賞を進める。
終末	○本時の振り返りを行う。

2時間目は改良した学習プリントを基に鑑賞させた。学習者に意欲を持たせるために「ブルタバ音楽解説員」と名づけ、スメタナに代わって標題を解説するという任務を与え「ブルタバ解説シート」と題した学習プリントを基に鑑賞させた。鑑賞させた部分は「ブルタバの2つの源流」「農民の結婚式」「月の光、水の精の踊り」「聖ヨハネの急流」である。



(図6) 2時間目で使用した学習プリント(抜粋)

(図 6)はこの授業で学習者が使用した学習プリントである。1回目の実践では〔共通事項〕の言葉を学習者に選択させたが今回は学習者の音楽のイメージを言葉で表現する語彙をより詳細に把握したかったため、聴き取ったことを自由に記述させた。

学習者の様子として〔共通事項〕という視点だけを与え、自由に考えさせた方が(図 7)のように音楽のイメージを言葉で表現する語彙が多様になるとともに、聴き取る際の学習者の特性が読み取れた。

②音楽の証拠たち	
●速度	軽快に速め
●強弱	小さいか大々 変に 豊かにした
●音色	軽やかでいい感じの音でいいかんじにおおきく、 いろんな音がでてくる
●楽器	フルート、ヴァイオリン、クラリネット、サックス、トランペット、 フエート、エレクトリックギター、ベース、パーカッション
●旋律	おもしろい旋律が流れてくる。おもしろい。 おもしろい。おもしろい。
●リズム	おもしろいリズム。おもしろい。

(図 7) 2 時間目で使用した学習プリントの一例

③3 時間目の授業展開

3 時間目の授業展開を以下の(表 5)に示す。

(表 5) 3 時間目の活動の流れ

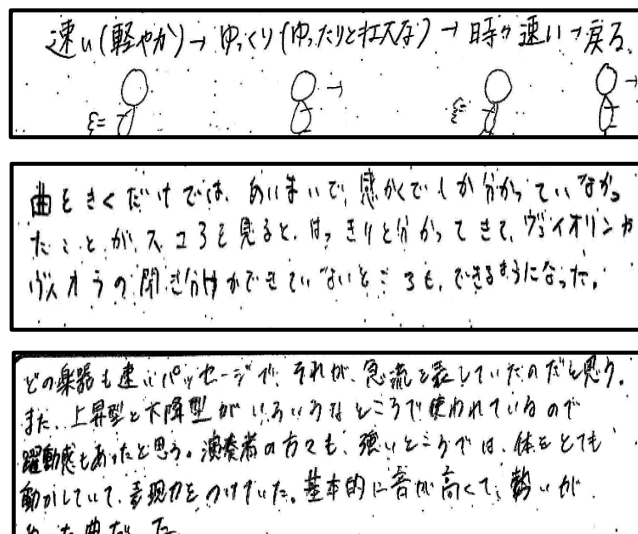
	活動
導 入	○前時の振り返りを行う。 ○スコアについて理解する。
展 開	○班ごとに、スコアと映像を使用し「ブルタバ」を鑑賞する。
終 末	○本時の振り返りを行う。

本授業では〔共通事項〕をより分析的に捉えるために、「ブルタバ」のスコアとオーケストラで演奏している映像を取り入れた。スコアを見ながら鑑賞することによって、音楽記号や速度記号また音楽用語から学習者が音楽の新たな視点に気づくことができる。また映像を取り入れたのは、スコアに抵抗感がある学習者にとって視覚的に鑑賞できる手立てだと考えたからである。



(資料 1) 3 時間目の学習者の活動の様子

以下は、3 時間目にスコアと映像を使用し、〔共通事項〕を分析的に鑑賞した際の学習者の記述の一例である。



(図 8) 3 時間目の学習プリントの記述の一例

(図 8)のようにスコアと映像を使用し〔共通事項〕を分析的に聴くことで、より具体的な音楽のイメージを言葉で表現する語彙で表現されていることが読み取れる。また、スコアや映像を使用することで今までになかった新たな視点に気づくことができている。具体的には自分が聴き取れていなかった楽器名や強弱記号などに気づいている学習者が多く見受けられた。

(4) 本授業の成果と課題

3 時間目の成果は 2 点あった。まず、学習者がスコアと映像を使用し〔共通事項〕をより分析的に鑑賞することにより、〔共通事項〕の言葉の表現がより具体的に表現できたことである。次に、学習者の感想の記述に「抽象的な聴き方だけでなく、スコアを見ることで具体的に音楽を理解できるところが面白かった」や「スコアを見ることで聴き取れていない楽器に気づけた」や「他の曲のスコアも見てみたい」とあった。このことから、自分の聴き方を深める時に、スコアや映像のように分析的な鑑賞をする手立ての必要性を学習者が実感できたのではないかと読み取れる。

課題としてスコアに初めて触れさせたため、聴き取りに個人差が出たことが挙げられる。そのため、日頃からスコアに慣れさせるために、定期的に短いスコアや拡大スコアを使用していくべきだと感じた。

5 研究のまとめ

197-203

本研究を通して、次のような成果と課題が明らかになった。

(成果)

- ・「イメージを音楽へ」という思考の流れを取り入れたことで、学習者が本来持っている音楽の言葉を引き出すことができたことである。
- ・聴き取るポイントを細かく分けて鑑賞をさせることにより学習者の音楽の言葉の充実がみられた。また、学習者自身が音楽を分析的に聴くプロセスを自覚し始めたことが挙げられる。
- ・学習者の鑑賞の学習プリントを指導者が見ることで、学習者独自の聴き方やイメージを指導者自身も分析考察できたことである。

(課題)

- ・〔共通事項〕を使おうと試みるも理解しきれていない学習者の様子から、〔共通事項〕の正確な意味を再確認する必要があることが分かった。そのために〔共通事項〕を理解させるような意図的・計画的な指導者の手立てが求められる。
- ・〔共通事項〕の聴き取りを行う際は、学習者に戸惑いがうまれないよう、聴かせる時間や部分を限定する必要があること、また選択肢を教師が用意する際には、聴く箇所と密接に対応させた言葉を用意する必要がある。
- ・分析的な音楽の聴き方が強すぎると感じ取る感受の意識が損なわれる。そのため、感受したことを分析する鑑賞の活動の在り方を追究する。

6 謝辞

本研究を進めるに当たり、ご協力してくださった協力校の皆様にご心から感謝申し上げます。

7 主な引用・参考文献

- 岡田暁生(2009)「音楽の聴き方」中公新書 31. 60-62
 下井田純子・上田啓子(2006)「鑑賞授業におけるワークシートの機能とその見方―『動物の謝肉祭』を教材に―」学校音楽教育研究 Vol. 10 日本学校音楽教育実践学会, p138
 中央教育審議会答申(2016)「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」
 福岡教育大学・三附属中学校 研究紀要第 17 号
 (2014)「豊かな感性を育む音楽科学習指導法の研究-「音楽」と「ことば」の往還を図った学習過程の工夫-」山崎浩隆 (2014)「小学校低学年の音楽鑑賞学習における比較聴取に関する一考察」熊本大学教育学部紀 63 : 229-234
 文部科学省 (2017)中学校学習指導要領解説音楽編
 山崎浩隆 (2015)「生活場面と音楽との関わりをもとにした音楽鑑賞学習」熊本大学教育学部紀 64 :

